

臨床研究に関する情報公開

福島県立医科大学病理病態診断学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。

関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

病理病態診断学講座 教授 橋本優子

【研究課題名】

悪性リンパ腫と関連疾患における予後調査研究

【研究期間】

2001年8月～2033年7月

【研究の意義・目的】

この検査の目的は悪性リンパ腫や類縁疾患の治療方法の開発や予防方法の向上にあります。悪性リンパ腫は大きくB細胞リンパ腫、T細胞リンパ腫、ホジキンリンパ腫の大きく3つに分類され、前2者はそれぞれ約15組織型に細分類されています。各組織型の生物学的態度（予後）は同一ではなく、低悪性度群から高悪性度群まであり、病理診断により最善の治療法が選択されています。この悪性度判定の新たな指標、悪性度判定に基づく病理組織分類の策定、治療法の開発には予後調査は欠かすことが出来ません。現在まで、予後因子として病期、白血化の有無、B症状の有無（発熱、体重減少）、盗汗（寝汗）など、LDH値^{*}、節外臓器浸潤などの臨床的事項が知られ、なかでも年令、LDH値、performance status（就労可能か）など、病期、節外病変の有無を組み合わせたInternational index（国際予後指標）が最も重要視されています。これらの臨床事項に加えて、特異な免疫形質（CD5, c-myc, p53, bcl-2など）や遺伝子形質（somatic mutationの頻度、bcl-2遺伝子再構成など）を持つ悪性リンパ腫の予後について調査され、成果が発表されてきています。それに伴い新たな治療法の開発の可能性が検討され始めています。

※LDH：（乳酸脱水素酵素）体内で糖分がエネルギーに転換されるときにはたらく酵素の一種です。ほとんどあらゆる細胞に含まれていますが、肝臓や腎臓、心筋、骨格筋、赤血球などに特に多く含まれています。したがって、これらの臓器などに異常があつて細胞が壊死すると、細胞中のLDHが血液の中へ大量に流れ出します。その量を測定するのがLDHの検査です。

【研究の方法】

- ・ 対象者は悪性リンパ腫あるいは類縁疾患（初発および再発を含む）を疑われ、病理検査のため生検や手術を行った方です。
- ・ 診断あるいは治療にあつた担当医師に調査用紙を送り、担当医師に記載していただくこととなります。内容は生検時データと予後調査からなります。前者には患者氏名、生年月日、生検日、病理診断、病院患者ID番号等が含まれます。後者の予後調査には初発日、臨床病期、International index（国際予後指標）、選択した治療法、患者さんの予後（寛解生存、有病生存、寛解死亡、有病死亡の有無）、転科の有無などが含まれています。

【研究組織、研究機関名】

研究責任者	病理病態診断学講座	教授	橋本	優子
主任研究者	病理病態診断学講座	教授	橋本	優子
研究分担者	放射線医学講座	教授	宍戸	文男
	消化器・リウマチ膠原病内科学講座	教授	大平	弘正
	循環器・血液内科学講座	教授	小川	一英
	小児科学講座	講師	菊田	敦
	会津医療センター	教授	北條	洋

【他の機関等への試料等の提供について】

該当なし

【研究者が保有する個人情報について】

研究者が保有する個人情報に関し、被験者ご本人又は代理人の方が開示、訂正、利用停止及び第三者への提供の停止等の請求を行う場合、「福島県個人情報保護条例」に基づく手続きが必要となります。なお、開示等を行う場合、請求者には文書等の交付に係る費用（コピー代等）をご負担いただきます。

【本研究に関する問合せ先】

○研究内容に関する問合せの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学学部病理病態診断学講座 担当 橋本 優子

電話:024-547-1165 FAX: 024-548-4488

E-mail: pathol-1@fmu.ac.jp

○個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話:024-547-1007 FAX :024-547-1995

○その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 研究推進課 研究支援担当

電話:024-547-1825 FAX: 024-547-1991

E-mail:rs@fmu.ac.jp